

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

学会はリモート参加のため交通費が発生しなかった。また、インタビュー調査およびアンケート調査への謝金は発生しなかった。

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

森本 千佳子(東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 准教授)

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

多田 浩司(全日本空輸株式会社 安全推進センター 業務推進部 部長)

研究課題名:

リモートワーク環境におけるクリエイティブワークのチームマネジメント

研究期間: 2020年6月1日 ~ 2022年3月31日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、クリエイティブワークの生産性向上に寄与する職場マネジメント研究である。特に、昨今の社会情勢下で注目されているリモートワーク環境においてどのようなマネジメントが有効かを明らかにすることを試みた。クリエイティブワーカーとしてITエンジニアを対象にアンケート調査およびインタビュー調査した結果、組織社会化の観点において、リモートワーク環境では若手エンジニアは人との繋がりがうまく作れず、その結果、組織へのコミットメントが十分に得られない結果を得た。また、リモートワーク環境では生活環境および家庭内の役割意識が仕事成果に強く影響を与えることが分かった[1]。また、リーダー候補者の育成の観点では、本人の成果意識と仲間意識が重要であることに加え、一歩踏み出すための支援環境が必要であることが分かった[2]。マネジメントの観点では、会社組織ではなく、プロジェクトに「居場所」を感じることで成長意欲およびリテンションと関連することが分かった[3]。これらの研究成果を、ソフトウェアシンポジウム SS21 において「エンジニアのトリセツ 5:ニューノーマル時代のチーム活動について考える～学び、成長するための入り口探し～」、SS22 において「エンジニアのトリセツ 6:エンジニア成長の肥料はどこから?:ガラパゴス Vs. オープンサイエンス」を開催し企業参加者に研究で得た知見を還元した。

[1] 森本千佳子: 価値探索型プロジェクトのマネジメントの試み, プロジェクトマネジメント学会 2021年度春季研究発表大会, 2021

[2] 吉野真礼, 森本千佳子: グループのリーダー立候補に影響を与える要因に関する研究, 経営情報学会 全国研究大会 2020(ポスター発表), 2020

[3] 森本千佳子: 女性プロジェクトマネージャのキャリア選択に関する事例分析, プロジェクトマネジメント学会 2022年度春季研究発表大会, 2022.4.21

\* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します